

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	ふれあい・ふらの すみれ	評価実施年月日	平成19年5月1日
評価実施構成員氏名	・ 大 滝 真 吾 ・ 松 倉 剛 司 ・ 金 田 景 介 ・ 佐 藤 峰 史 ・ 田 澤 絵 里 香 ・ 湯 浅 望 ・ 村 山 和 代		
記録者氏名	大 滝 真 吾	記録年月日	平成19年5月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自のホーム理念・ケア理念を作り上げている。</p>		
<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念は目のつくところに掲示はしてあるものの、全職員が理念を共有出来ている状況とは言えず、実践にもまだまだ至っていない部分がある。</p>		<p>心穏やかにありのままに、その人らしく生活が遅れることを保障します。この基本理念の実践に取り組んでいきたい。</p>
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>御家族様には入居前に説明をし、ホーム内には常に掲示はしてあるものの、浸透までには至っていない。また地域の方への取り組みは今のところ準備段階である。</p>		<p>地域の方からの理解が得られるよう、今後は運営推進会議も活用していきたい。また町内会の行事にも積極的に参加していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>いつでも気軽に立ち寄りの出来るように声掛けは行っている。畑の花の手入れの仕方等を教えて頂いている。</p>		<p>声掛けは行っているものの、ホームに立ち寄って頂くまでには、至ってないので、気軽に立ち寄って頂ける様、努めていきたい。</p>
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>夏の町内の神社祭り、他施設の敬老会参加等交流を図っている。</p>		<p>今後も行事等の交流の場を作っていきたい。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>現在、町内の方と取り組んでいける様にと話をし基盤を作っている段階。</p>		<p>地域の方々と高齢者社会の中で、共に助け合い事業者が貢献できる様に取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	全職員が評価の意義を理解するまでには至っていない。	全体が理解出来るよう指導し、評価を行う事で現在おかれているホームの改善すべき項目、日頃のケアの見直しを行い、良質なケアの実現に努めていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	現在は、第1回目の運営推進会議にむけて調整中	運営推進会議を活かし、サービスの向上に努めていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	富良野市の地域ケア講座などに積極的に参加している。	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	パンフレットや本などで制度の理解はあるもの、それに留まっている。	必要な人がいたら各機関と連携を図り、その人らしい生活が送れる様に支援していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	申し送りの時などに、ニュースや新聞等の情報をスタッフ間で話す場を設けているが、学ぶ機会としては不十分である。	より専門的な勉強会への参加をとおして全職員へ徹底していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	その都度、説明し理解、納得をしてもらえる様に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>管理者や職員が、利用者様の意見等を聞くことにより、ケアには反映出来ている。</p>		<p>さらに運営に反映させ、より良いケアが行なえる様にしていきたい。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会時、お便り、電話等で定期的または個々にあわせて随時報告をしている。</p>		<p>継続する様、努めていく。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を玄関に設けており、電話や面会時には直接受付するよう努めている。</p>		<p>継続する様、努めていく。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>施設長が定期的に意見や要望を聞いてくれ、個別に面談を行っている。</p>		<p>継続する様、努めていく。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者様の変化に応じて、その都度対応している。</p>		<p>継続する様、努めていく。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動はあるものの、日頃から両ユニットに顔を見せているので、利用者様が馴染みの支援を継続して受けられるように配慮している。</p>		<p>継続する様、努めていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	個々に応じて研修会に参加している。	今後もスキルアップを図り、認知症ケア知識を深めていくとともに、全職員が情報を共有出来るよう努めていきたい。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	電話等でホームの状況等の説明を行い、ネットワーク作りを行っている。他施設の勉強会、研修などに参加している。	今後もサービスの質の向上を図り、交流を深めたい。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	スタッフ間で交流の場を作り、ストレス軽減するための工夫を行っている。	今後も継続し、ストレスの軽減に努めたい。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	状況の把握は出来ている。	個々がより向上心を持てるよう努めていきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	初期の段階で本人とのかかわりの場を多くもち、不安にならない様に努めている。	より充実出来るよう努めたい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	御家族様の不安を軽減させるため、面会の機会を多くつくり、信頼関係を築ける様に努めている。	御家族様との密な連絡、情報提供によって信頼関係を今後も築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主治医、担当ケアマネージャーと連携を図り、ご本人様と御家族様に最も適しているサービスを利用できる様に努めている。		継続する様、努めていく。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスを開始する前に管理者が面談に行き、まず馴染みの雰囲気を作り、十分に安心感を持って頂けるように努めている。		継続する様、努めていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人様と共に一日一日を一緒に生活をしていく中で、共に助け合い生活を送っている。入居者様に出来ることを手伝ってもらっている。(茶碗拭き、洗濯物たたみなど)		継続する様、努めていく。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様に入居者様の情報を共に共感できる様に連絡を取っている。その中で御家族様の立場に立ち、かわりをもっている。		継続する様、努めていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人様の状況をその都度伝え、行事などの場を設け参加を促すことにより、よりよい関係が築けるよう支援している。		継続する様、努めていく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームに気軽に来てもらえる雰囲気を作り、行事等の参加への促しも行っている。		継続する様、努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	スタッフが間に入り交流の場を作り、入居者様同士が関わりやすい様努めている。		継続する様、努めていく。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	御家族様などに会う機会があると、ご本人様等の状況等を聞いていますが、定期的には連絡を取っていない。		必要な場合は、継続的な関わりが持てる様にしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、本人、ケアの安全を考える時がある。		ケアの質の向上を図り、本人本位の生活ができる様に、関わりをもちたい。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	申し送りの後等に、ミニケア会議を開き、サービス利用の経過等の把握に努めている。		把握内容の充実に努めていく。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その都度、御本人様の心身状態に応じて、一人一人の過ごし方に合った暮らしができる様に努めている。		個人記録や日々の生活の中での変化を、各スタッフで話し合っていく今後も対応していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御本人様・ご家族様の希望を考慮した介護計画作りを心掛けているが、御家族様には介護計画の了承のみに、とどまることがある。		御家族様の意見、希望を聞ける場を積極的に設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月毎のモニタリング、3ヶ月毎の計画の見直し、また必要に応じて計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録において個々の行動、食事量、排泄等の情報をスタッフが把握できる様にしており、その中で工夫、計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望があっても柔軟な対応が出来ていないこともある。		御本人様の要望は、速やかに対応するよう心がけているが、中には御家族様の協力が無いと出来ない事もあり、そういった場合でも柔軟に対応出来るよう今後は検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ホームで行事がある時に、足りない物品等を文化・教育機関等からお借りする事がある。また、地域で行事がある時は、参加させてもらっている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要に応じて他事業者、ケアマネジャーと連絡を取り、サービス利用のための支援を行っている。(リハビリ等)		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護の利用まではいかないが、ホームの情報、状況等の連絡を定期的に行っている。		必要に応じその都度、連携を図る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的に受診を行い、日常の健康管理や医療活用の支援が行える様にしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医には相談しているが、認知症の専門医の受診は行っていない。		御家族様に相談をして、認知症に関する診断や治療の検討を行いたい。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保することを検討してはいるものの、現在職員としては確保していない状況。地域の看護職と気軽に相談出来る関わりはある。		より充実した支援のため、事業所として看護職員を確保していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	その都度情報交換を行っていて、連携を図っている。		今後も同様に連携を図りたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	全員で方針を共有することは、現在出来ていないホームの職員が窓口になり、現在の本人の状況確認はとれている。		重度化、終末期に向けた共有した考えで関わりがもてるようにしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向けたチームでも支えは、現在取り組んでいない。		今後チームケアとして支援できる様に、検討して準備を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移り住む際に、御本人様・ご家族様と検討している。		よりダメージを防ぐため十分な話し合いが出来るよう努めたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人のプライバシーを損ねるような言葉かけや、対応に気を付けている。		気を付けているつもりだが、日々心掛けてプライバシー確保ができる様にしていきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	御本人の思いやわかる力に合わせ、スタッフもその都度、説明を行っている。		今後も日々御本人が納得できる様な、関わりをもちたいと思う。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の数が少ないときなど、入居者に迷惑をかける場合もあると思われる。		その人らしい生活、暮らしが行える様に職員のスキルUPを図っていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	御本人の望む理容、美容室に行っている。		継続する
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	スタッフ、入居者と一緒になって準備、片付け等を行っている。入居者の役割となっている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	食事制限のある方等に配慮しながら、楽しみの場の支援を行っている。		今後も継続していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちの良い排泄の支援を行える様に心掛けているが、スタッフの気付き不足で迷惑をかけている事がある。		スタッフのスキルUPを図り良い関わりが持てる様に心掛けたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人一人の希望でタイミングに応じて、入浴を楽しめていると思う。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その都度、かわりを持ち安心できる様支援している。		スタッフの気付きも増やし、質の向上を図りたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割(茶碗拭き等)入居者のできる範囲、その時に応じて関わり楽しみや理解、気晴らしの支援を行っている。		今後も継続していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人に応じてお金の管理、支援を行っている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員、御家族様が一緒に出掛ける事になるが、その都度希望に応じて支援を行っている。		今後も継続していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御家族様の協力が必要な支援であり、機会作りを行っているも、あまり行けていないのが現状である。行ける人も限られている。		御本人の状況に応じて普段行けない場所へ外出出来る機会を増やしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	その都度希望に応じて電話ができる様に支援している。		今後も継続していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問できる様にしている。		居心地良く過ごせる様配慮していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等はしてい無いが、言葉の拘束に注意しケアに取り組んでいける様、スタッフ同士で話しをしていきたい。		全職員が正しく理解出来る様、勉強会を開いていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の鍵をかけている入居者の希望により、出入を行いやすい様に見守り、声掛けを行っている。		今後運営者、職員の一色を変えケアに取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的に人数の確保を行いスタッフ間で利用者の安全確認に努めている。		今後も継続していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その都度職員が注意をはらい、危険の防止に取り組んでいる。		今後も継続していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	申し送りなど、一人一人の状況を把握し、その都度事故防止に注意をはらっている。		今後も継続していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の基本的知識を知っている程度に留まっている。		定期的に訓練を行い、新しい職員には随時指導していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	近隣施設との協力関係は整っている。		定期的に地域の人々に声掛けを行い、協力を得る働き掛けを今後もしていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	スタッフ間に留まっている。		御家族を含めて話し合いの場が必要。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々、申し送り時等に気付きを職員同士話合っている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のファイルなどを作り誰でも確認できる様にしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の促し等を行い、入居者と身体を動かす機会を設けている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの促し、うがいなどを行なっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量に応じて支援を行っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	掃除時に塩素系のものを使用し除菌を徹底している。また、うがい等入居者に呼びかけ、行ってもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	管理などを行っているが、衛生面にもっと注意をはらう必要がある。		衛生管理を徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に鍵がかかっている。		安心が持てる工夫をする必要がある。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れた飾り付け等を行い、居心地よく過ごせる様に心掛けている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関前にイスを置いたり、スタッフルームの戸を開放して、入居者にも出入りしやすい様にしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にご本人・御家族様と相談をしている。またその都度連絡、御本人にも相談をして検討工夫をしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その都度、状況に応じてこまめに対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	部分的な介護などを行い、安全に生活が送れる様関わりを持っている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ネームプレート等、場所がわかりやすい様に工夫、声掛けを行い関わりを持っている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や畑などを作り、外へ行ける機会を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない <p>まだまだ全ての意向を掴むまでには至っていないと思います。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ✓①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない <p>ゆったり過ごす場面を大切にしています。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ✓③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>笑顔が増えて来ていると思います。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>笑顔が増えて来ていると思います。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ✓③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>御家族の協力が必要だったり、難しい部分もあります。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>不安のないようケアしていきたいと思います。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <p>不安のないようケアしていきたいと思います。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ✓③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない <p>面会の機会の少ない方もおり、配慮が必要だと思っています。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ✓②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない <p>もう少し地域の人々が、気軽に訪ねて来れる様環境を整えていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ✓②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>現在調整中</p>
98	職員は、生き生きと働けている	<p>①ほぼ全ての職員が ✓②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>現況と理想の違いを考えている人もいます。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ✓③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>まだまだ意見を聞く必要があると思います。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ✓③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>まだまだ意見を聞く必要があると思います。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

※その人らしい生活を送れる様に、職員はその都度対応しており、かかわりがもてていると思います。

※利用者の表情が良いホームだと思います。

※笑顔が増えて来ていると思います。